

Age-Period-Cohort 解析による、 スポーツ強度を加味した運動充足率の経年推移の検討

厚生労働省から示されている「健康づくりのための身体活動基準」では、個人の健康づくりのための身体活動基準として、18~64 歳の身体活動に関して以下の運動量が定められている。

身体活動（生活活動+運動）...強度が 3METs 以上の身体活動を 23METs・時/週行う
運動 ...強度が 3METs 以上の運動を 4METs・時/週行う

この基準のうち運動に関する基準の充足状況について、笹川スポーツ財団によって行われてきたスポーツ活動に関する全国調査のデータを用いて検討を行う。検討に際しては、年齢・時代・出生コホートによる効果が調査結果に影響を及ぼしていることを考慮して APC 解析を適用する。

本抄読会では、調査において回答された種目に対する運動強度当てはめについての報告と、APC 解析の概要の紹介及び今後の解析の見通しについて扱う。

参考文献

- [1]大野ゆう子・清水佐知子・三輪のり子(2006) “保健医療データと統計数理：APC モデルについて”, CICSJ Bulletin, Vol.24 No.4 127-131
- [2]Chris Robertson & Peter Boyle(1998) “AGE-PERIOD-COHORT ANALYSIS OF CHRONIC DISEASE RATES. I: MODELLING APPROACH, STATICS IN MEDICINE” , Statist. Med. 17, 1305-1323
- [2]山本達三・中村隆(2015) “スポーツライフに関する調査平成 4~26 年(笹川スポーツ財団):成人の運動・スポーツ実施レベルへの年齢・時代・世代の影響” ,体育の科学,Vol.65 No.8 577-585
- [4]笹川スポーツ財団(1992~2016) “スポーツライフ・データ”
- [5] World Health Organization (2010) “Global Recommendations on Physical Activity for Health” (http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/44399/1/9789241599979_eng.pdf)
- [6]厚生労働省(2013) “健康づくりのための身体活動基準 2 0 1 3” (<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002xple-att/2r9852000002xpqt.pdf>)
- [7] Ainsworth BE, Haskell WL, Herrmann SD, Meckes N, Bassett DR Jr, Tudor-Locke C, Greer JL, Vezina J, Whitt-Glover MC, Leon AS(2011) “Compendium of Physical Activities: A Second Update of Codes and MET Values”, Med Sci Sports Exerc. 2011, 43(8):1575-1581
- [8] 中江悟司・田中茂穂・宮地元彦(2012) “身体活動のメッツ(METs)表” ,(独)国立健康・栄養研究所, (<http://www.nibiohn.go.jp/eiken/programs/2011mets.pdf>)